

早稲田大学
図書館紀要

第 70 号



図書館の貴重資料が教えてくれること (三)

図書館長 ローリーゲイ

天保八年(一八三七)に『おあんものがたり おきくものがたり』という二つの回想録を収録した本が江戸と京都で同時に刊行された(『おあむ物語』文庫三〇E三三四)。「おあん」とは石田三成の家臣山田去暦の娘で、同書には彼女の子どもの頃の凄惨な経験が昔語りの中で記されている。一六〇〇年関ヶ原の戦いの前夜、包囲された大垣の城では天守で女たちが鉄砲玉を鑄たこと、味方が討ち取った首に札を付けたり、お歯黒を施したりしながら、その血生臭いなかで眠ったことなどが、臨場感をもって語られている。父去暦が徳川家康の手習いの師匠の一人だったこともあり、おあんとその家族は命からがら城から落ち延びることに成功する。

この回想録は年老いたおあんの一人称で語られているが、筆録者は未詳である。

戦乱がもたらすむごさを、女性の視点で生々しく後世に伝えてくれる資料である。

2023年3月